



第6回流動ダイナミクスに関する国際会議 (6th International Conference on Flow Dynamics)

東北大学グローバル COE「流動ダイナミクス知の融合教育研究世界拠点」が主催する 第6回流動ダイナミクスに関する国際会議 (ICFD2009) が、11月4日～6日の3日間、仙台市のホテルメトロポリタン仙台で開催され、世界各国から多くの教育者・研究者・大学院生が参加し、参加した人の総数は448名(うち外国人157名・16ヶ国)でした。

今回の ICFD2009 は、開会式での早瀬所長、多元研水崎教授 (ICFD2009 実行委員長) および GCOE 拠点リーダー圓山教授らの挨拶、アメリカ Temple 大学 Tao 教授、韓国 Seoul National 大学 Yoo 教授、および、東北大学寒川教授という3名の夫々斯界の第一人者による基調講演を皮切りに始まりました。

全体構成は、General Session と11の Organized Session から成り、そのうち流体科学研究所が主催する AFI/TFI-2009 では、流体科学研究所の構成員が国内外の研究機関と共同で行う共同研究について、充実した講演と討論が展開されました。

今回が5回目で、「ICFD の特徴的なセッション」となってきた「The Fifth International Students/Young Birds Seminar on Multi-scale Flow Dynamics」では国内外から多数の学生が、「The 10th Japan-Korea Students' Symposium」では、韓国と日本の学生達が活発な講演と質疑を繰り広げました。

「GCOE, IFS-Tsinghua University Joint Workshop 2009」では、前回の北京に続く2度目の開催で中国清華大学側(教員7名と大学院生4名)、東北大学側からは前回は大きく上回る教員・大学院生が参加しました。

「Liaison Office Session」に於いては、東北大学流体科学研究所が Liaison Office を設けている The University of Sydney, The University of New South Wales, Moscow State University, KAIST, Syracuse University, INSA-Lyon, Royal Institute of Technology, Sweden(7大学) と東北大学からそれぞれの大学とその活動状況等や、今年9月にフランス リヨンで開催した「東北大学ーリヨンサマースクール」を紹介するとともに、「2010年度のサマースクールを東北大学・仙台で開催する可能性」について話し合いました。

今回初めて開催されることになった「Alumni Session」は、かつて流体科学

研究所で学び・研究し、現在 国内外の大学や研究機関等の第一線において活躍している流体研 Alumni(23名)を招き、講演と **Poster Session** が行われ、現在の研究機関の研究・教育の現状報告等や、更に広範なネットワーク作りの提案もあり大変盛況でした。

11月5日の夕刻、約300名が参加したバンケットでは、アトラクションとして加茂綱村太鼓も披露されて、大変な盛り上がりを見せました。

なお、ICFD2010は2010年11月1日(月)～4日(木)に仙台国際センター(1日～3日)と流体科学研究所(4日)で開催される予定です。



会場風景



Banquet



Poster の前での Discussion